



愛のキャンパお礼挨拶（連合栃木板橋事務所長を囲んで）

目次

【特集】

- 1. はじめに
 連載 春夏秋冬「星の家」 NO5
 事務局からの報告
 理事会報告ほか



巻頭は、今月号から本会役員が当番で寄稿します。
 ちょっと一休みをしておりました春夏秋冬「星の家」の連載を開始しました。

1. 人が生きること

理事 浅香 勉

はじめに

10月のはじめに、私の勤める国際医療福祉大学の卒業生の結婚式に出席しました。温かく純朴な人柄の秋田出身の身体障害者療護施設で懸命に働く新郎と、高齢者施設に勤めるしとやかな栄養士の新婦とが赤い和傘をたずさえて披露宴会場に入場すると、拍手と共に皆の表情がにこにこ和みました。

披露宴は、新郎新婦の成長の様子、御両親・家族と二人の相互の想いが示され、職場や親戚の方々、同級生、恩師からの祝辞、祝いの唄等も加わり安心感と楽しさが印象的でした。

1. 人が生きる為には、多くの人々が関わっていく必要があること

私は披露宴に出席しながら、最近児童相談所での児童福祉司新任研修でお話した「新生児微笑」「誘惑の微笑み」に思いを馳せました。それは赤ちゃんは生得的に自己と向き合う大人たちからかわいがってもらえるように、誰にでも微笑む力を持っているということです。やがてその大人たちの中から最も自分を大切にしてくれる特定の人を探し出し、他者を拒否しはじめます。この「人見知り」によって保護者は更に充足感を感じ愛情をその子に注ぎ、エリクソンのいう「基本的信頼感」を子どもは獲得します。すると子どもはその後のしつけや社会規範を受け入れる力をも獲得し、長じて学業や職業への知識、対人関係の作り方を多くの人々から学び社会人として

生きていけるのです。新郎新婦の姿から、私はまさに多くの人々の関りと育みを思いました。

2. 生きる喜びを味わえる人

自立援助ホームを利用する子どもたちとその家族は、こういった関りから本人たちでは避けようのない形で遠ざけられ、その結果「待つこと」「許すこと」「耐えること」「考えること」といった態度を獲得できず、その後にくそ得られる多くの生きる喜び、人生への期待・展望、他者への信頼・愛といった気持ちを持つことがとても少ないように思えます。

3. 社会の成熟度と生きずらさ

今日若年層を中心に年間200万円以下の収入の人々が1千万人に達し、二人世帯以上の貯蓄ゼロの世帯比率は20%を超えています。2006(H18)年には自殺対策基本法が制定されていますが、9年連続で年間自殺者は3万人を越え児童を巻き込んだ心中・遺族問題は、児童虐待や多重債務の問題を提起しています。こういった中で文化人類学では、物が豊かになり、過密化した社会の人間関係の希薄化を指摘しているそうです。確かに隣人のことを都市部の人々は知りません。私たちに求められるのは、皆が生活を工夫工面し、困難に直面する家族や友人・隣人への悲しさや苦痛を思いやれる力と、そのことで得られる安息に気づくことなのでしょう。

4. 私たちの生きる意欲を高めるもの

9月の夏休みの私のゼミ学生の1・2年合同合宿・登山は台風で延期となっていました。そこで10月の第1土曜日に、茶臼岳に登りました。私も入れて22名全員登頂でき、とてもうれしかったです。山登りは、体力の強い者を後ろに、体調の不十分な者・体力に自信の無い者をできるだけ前にして歩きます。複数の屈強な学生を後ろに並ばせながら、先頭の私の後ろに位置する最も遅い女子学生のペース

での登山は、楽しいのですが苦勞も多いです。私の荷物や潰れそうな女子学生の荷物を力のある学生に持たせたりして進みます。

全体の様子を見ようと、少し速く私が歩いて振り返ろうとすると、精一杯登っている女子学生たちは、優しい精一杯の非難を私に投げかけてくれます。

何事にも意欲を高めるには、精一杯の姿を感じ取れる人が傍らに居ることが必要なのだと改めて思っています。

春夏秋冬「星の家」 NO.5

暑い日が続いたかと思うと、10月に入って急に涼しくなり、もうすっかり秋です。今年の夏も冷房なし・扇風機のみで乗り切った星の家にとっては、なんとも過ごしやすい季節になりました。

星の家速報!

このところ退所者が続いて現在は4名の入居者がいます。入居してからもうすぐ1年になる“M”は、最近二つ目の仕事を決めて、掛け持ちをしながらアパートに出る準備をしています。4月の入居と同時に厨房の仕事をしている“G”は毎朝目覚ましで起き、朝方5時には自転車で職場へ向かいます。1月に入居してから何度か出入りを繰り返している“S”は、これから星の家で居場所を作れるように、どう踏ん張るのか。入居したばかり、最年長19歳の“N”は星の家OBの職場を紹介してもらい設備屋で働き始めました。

また今年に入ってから、宇都宮大学の学生が「友の会」を通じてボランティアに来てくれています。夕方から夜にかけて入居者と共に過ごしてくれたり、まつりの準備を手伝ってもらったりしています。入居者にとっての良い話し相手にもなっていて、星の家の大人には出来ない役割を果たしてくれています。

10月に入り、いよいよ星の家まつりの準備があわただしくなってきました。特にバザー物品が続々と集まりだすと、星の家だけでは置き場所がなく、幕田町にかりている一軒家までワゴン車で運びます。重たい段ボールを車に積んだり、値付けの時には、入居者の男の子と星家の子どもも手伝ってくれて、大きな戦力になっています。

大変・・・?

星の家に見学いらした方やバザー物品を届けてくださる方には、いつも「大変でしょう」「頑張ってください!」と声をかけていただいています。とて

もありがたい言葉なのですが、後から一体星の家の何が大変なのだろうかと考えます。今時の星の家入居者には、茶髪なんていないし、見るからに強面の子もいません。暴れるような子もないし、お客様が来れば皆きちんとあいさつをする子ばかりです。

でも共に生活をしていると、「・・・?」と理解不能なことが次々と予測不能に起こります。皆で食べてと、いただいたお菓子が丸ごと姿を消す!(誰かが全部食べてしまったのか?)仕事で出かけているはずの子の部屋から人のいる気配がする!(気のせい?友達..連れ込み!?)洗濯物を取り込んで、と言うだけで逆ギレされる!(うるさく言いすぎたかなあ、でも素直にやってくれればいいのに。)

これくらいならいいのですが、無断外泊をしていた子が、突然にくわぬ顔で帰ってくる!(不意打ちで顔を合わせちゃったら何て言おう)なんてこともあります。・・・目の前にいる子以外の子のことも頭にあるし、その日に言い合った子とのやり取りは、うちに帰っても考えてしまい、「ああ言えばよかった」なんてことはよくあります。一方的に怒ってしまった日、言おうとして言葉を呑んだ日、後から一人で考える事が多いように思います。直接のやり取り以外でも、日常的に起こるこういった出来事にエネルギーが必要なかもしれません。

しかし、不思議なことがよく起こりますが、もちろん暖かい気持ちになるようなこともあります。

こんなことがありました!

先日、去年一年間星の家スタッフをしてくれた太田黒さんの誕生日会をしました。そこで「俺、何買ったらいいかわかんないよ~」という“G”と誕生日プレゼントを買いに出かけました。お店ではああでもないこうでもないでプレゼントを選び、ラッピングもお願いしてその帰り道。“G”が「自分で渡すの嫌だから。」



「勝手に置いとけばいいよね」と言い出しました。始めは照れているだけかと思っていたのですが、「緊張するから嫌だ」とぼそつと言うのを聞いて、なるほど、と思いました。自分の選んだプレゼントを相手が喜んでくれるか分からない。だから渡すのは緊張して嫌だ、ということだったんです。

誕生日プレゼントは、渡す相手のことを考えながら選ぶもの。人に誕生プレゼントを選ぶのが初めてだった“G”が自分以外の人のことを一生懸命考える。そんな経験の一つひとつ重ねていくことが大切なんだなと感じ、“G”にとって良い日になったなと、

ほのぼのとした気持ちになりました。その夜には入居者同士の取っ組み合いがあり、私のほのぼのとした気持ちはどこかへ吹っ飛んでしまったのですが……。

毎日の生活を共にしていると、お互いに色々な面が見えてうれしかったり、悲しかったり、悔しかったり、感動でじんわりしたり、沢山の感情を感じることが出来ます。普通の生活をしながらも、些細なことで怒ったり、喜んだり出来る、そんな様々な感情を感じることが出来るのが、自立援助ホームの良いところだと私は思うのです。(Y・Y)

事務局報告

理

理事会報告

現在理事会では、2年連続の赤字収支からの脱却を目指して、ファンドレイジング（資金調達）をメインテーマに精力的に議論を重ねております。結論を得るまでにはかなり時間がかかると思われませんが、7月と9月に開催した理事会審議の途中経過をご報告します。

議論を集約した結果として

- ・支援者を幅広く集め易くするため現会員制度を見直す。
 - ・資金調達コストを抑えた寄付集めの手段として、栃木県内のNPO法人と協同して総合力を発揮した寄付集めの仕組みを模索する。
 - ・新たな活動資金調達源として青少年問題の解決の一助となる新しい事業を模索する。
 - ・また、活動広報のあり方として「星の家」の問題に留まらず青少年をめぐる社会的諸問題を広く社会に訴えていくことに取り組んで行く。
- などの諸課題について継続審議していくことになりました。検討課題の中にはかなり難しいものがありますが、安定した収入確保に向けて取り組んでいくことが役員の共通した認識であります。

皆様方のご理解とご支援をお願いします。

連

合から「愛のカンパ」金をいただきました！

日本労働組合総連合会（略称：連合）が実施している「愛のカンパ・地域助成事業」に、東京電力労働組合栃木総支部（執行委員長：木村靖）が“本会のために”と応募していただいたもので、連合から45万円もの“愛のカンパ金”をいただきました。



この「愛のカンパ」は、連合組合員・OB組合員またはその家族が活動に参加しているNPO・NGO団体や構成組織、地方連合が推薦する団体に、連合「愛のカンパ」で集約したカン

パ金を寄贈し、活動に役立てるという趣旨のもので、特に「地域NPO活動等」への助成は7年目を迎えたと言うことです。

福田理事長と星ホーム長がお礼にと、9月26日に連合栃木の板橋事務局長を、また28日には東京電力労働組合栃木総支部の木村執行委員長にそれぞれお会いし、お礼かたがた本会の取り組み状況をお話してきました。

連合組合員の皆様方にお礼申し上げます。

第10回「星の家まつり」開催のお知らせ

日時 10月28日(日曜日) 10時30分から15時まで

場所 宇都宮市明保野体育館

「バザー用品」のご提供、「まつりボランティア」を募集しております！

お問い合わせ:028-651-0161 星の家まで

寄

付・会費納入者

敬称略・順位不同

平成19年7月～19年9月まで

(個人情報保護の観点から、ウェブ版では個人名は割愛させていただきます)

編集後記

全国で記録続きの猛暑が続いた夏が9月下旬に終わりようやく本格的な秋が訪れました。今年の紅葉の見ごろは、例年より遅れそうで紅葉狩りを計画しておられる方は調べてからお出かけくださいね。

さて星の家はといえば、まつりの準備で星の家の入居者の手を借りながらスタッフは毎日忙しく過ごしております。

バザー用品も10月に入りぼちぼち集まり始め、前回以上の物品が集まればと期待を寄せていますが果たして??? と言うことで、まだ間に合いますのでバザー用品のご提供よろしくお願ひします!! (多門)



会費納入及びご寄付の郵便振替先について

加入者名: 青少年の自立を支える会 口座番号: 00140-3-366972 *通信欄に会員種別等及び金額をご記入ください。
「会費等の金融機関引落し」のご利用をお願いしております

発行者/ 認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会
発行日/ 2007年10月16日
発行責任者/ 福田雅章
編集責任者/ 曾根俊彦

所在地/ 321-0963 栃木県宇都宮市南大通り 4-2-18
電話/ 028-651-0161 FAX/ 028-651-0162
IP 電話/ 050-3437-2401
Eメール/ sasaeru@snow.ucatv.ne.jp
HP/ <http://www2.ucatv.ne.jp/~sasaeru.snow/>